

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	宗教法人 真正寺 グループホーム ハーモニー	評価実施年月日	平成19年12月1日
評価実施構成員氏名	松本 丈 大滝 妙子 山内 靖代 小川 京子 村山 智世 古川 育代 川原田 房子		
記録者氏名	斎藤 真	記録年月日	平成19年11月9日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

☐ は外部評価項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
☐	1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを 支えていくサービスとして、事業所独自の理 念を作り上げている。	開設当初からのホームの理念はできているが、地域との交流についての記述がない。	○	地域の中でのグループホームになるように、運営理念の再検討が必要である。
☐	2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる。			
☐	3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続け ることを大切にしたい理念を、家族や地域の 人々に理解してもらえるよう取り組んでい る。	フロア、玄関に運営理念を掲示し家族への説明はされているが、地域に向けての説明はない。	○	地域の人達との交流自体が少ない為、今後増やしていきその際に説明していく必要がある。
2. 地域との支えあい				
☐	4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえ るような日常的なつきあいができるように努め ている。	買い物や外出の際に、声をかけたりはされているが気軽に立ち寄れるまでにはい たっていない。	○	定期的に地域の人たちが参加できるイベントなどを開催し、交流できる機 会を設けていく必要がある。
☐	5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に 参加し、地元の人々と交流することに努め ている。	1年に1度夏祭りを地域の方たち参加のうえ開催しているほかは、地域活動に参加 はされていない。		今後は地域の活動(町内会など)に参加することも検討していく必要がある。
☐	6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り組 んでいる。	話し合いは行われていない。		地域運営推進会議の場において、地域貢献に役立つことはないか検討 していく必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者・管理者・職員ともに意義は理解できている。又、改善点においては管理者・職員間で話し合われ改善に向けて努力されている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は行われている。	○	今後は運営推進会議の場で、地域との交流についての具体的な話し合いを進めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者との交流の場は少ない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護については、研修などの際に学んでいる。成年後見人制度については、内部研修を行い資料配布とともに詳しい説明を行った。		今後も介護職の知識・スキルアップに必要なものは、研修や内部研修を行っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止法についても、研修・内部研修を行い全職員の意識付けを行っている。		研修や内部研修のみではなく、日常業務の中で起こりえる虐待の種を職員同士で話し合い、どう防いでいくか日常的に話し合う機会を設けていく必要がある。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ケアマネージャー・管理者が家族との時間を出来るだけ設け、説明を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	随時電話や面会時に報告させていただいている。又、毎月1回のホーム便りに1ヶ月の様子をのせ、報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情箱の設置のほか、面会時やケアプラン説明時に家族の方に意見・要望を聞き取り入れている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員から管理者へは日常的・又はミーティングの際に意見交換されている。管理者・運営者間もつき1回の会議にて話し合いされている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。			
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各フロアの職員の移動が多いように思える。それに伴い、利用者に影響が出ていることもある。	○	利用者の負担を考慮し、移動は最小限にとどめるべきである。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間研修計画の作成、又、随時内部研修を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流の場は、研修時のみとなっている。	○	研修以外にも、他施設の見学や勉強会に参加していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。			
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。			
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面談時にケアマネジャー・管理者により出来るだけ話を聞き取る時間を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利 用するために、サービスをいきなり開始する のではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しな がら工夫している。	入所時には、本人の状態を見極める為ケアプランの内容を短期間の暫定プランとし、 その後のカンファレンスにて細かいプランを作成している。又、入所時には家族に協 力していただき、出来るだけ面会にこられるように各管理者から話しがされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に おかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共 にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている。	職員それぞれが、自分が同じ立場ならどういう風に感じるか考えながら対応されてい る。また、ひとりひとりの得意な面を引き出しともに支えあいながら生活されている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に おかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を 支えていく関係を築いている。	年間行事や誕生会などに家族の方も参加していただき、入居者・職員とともに楽しく 生活していけるように支援されている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に 努め、よりよい関係が築いていけるように支 援している。	ホームにすべて任せますという家族も見られる。	○	年間行事や誕生会などとは別に家族会を行ったり、より面会に来られる 雰囲気作りをしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないよう、支援 に努めている。	月に1度の個別レクのさいに本人希望の場所や、昔よく言っていた場所などに出かけ るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係は把握されているが、孤立することもある。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	前例なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を大切にされている。困難な場合には、時間を置いてからの対応や代替ケアも検討されている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	職員それぞれが、入居者本人や家族の方との会話の中で生活歴を聞き出し、他の職員と共有できるようにされている。		介護記録、フェースシートの更新など、随時行われている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	各入居者の方に居室担当として職員を配置しており、週間予定表を作成することにより現状を把握している。又、他の職員にも随時共有できるように話されている。		それぞれの一日の過ごし方を随時検討し、週間予定表として作成されているが、そればかりにとらわれず臨機応変に対応されている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	現在ケアマネージャーが不在であるが、定期的カンファレンスが行われ、家族にも説明がなされている。		家族との説明の際に、ほとんどの場合がこちらからの一方的な説明になりがちである。今後は家族からの意見が出しやすいホームの雰囲気作りも課題として残されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態に応じてケアプランの見直しはされている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿った介護記録の記入とともに、申し送りも活用し共有されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病気などの際には関係医療機関と連携をとり、対応している。また、隣接されているデイサービスも家族からの要請があれば活用できるように支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	前例なし。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	前例なし。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	されていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	関係医療機関により週1回の往診、3ヶ月に1度の定期検査を行い、必要時には迅速に対応していただいている。また、入居前からの主治医がある方は、入居してからも引き続きお願いし月1回程度受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医のもと行われている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	隣接のデイサービスに看護職員が働いており、気軽に相談できる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	管理者により、早期退院に向けて取り組まれている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	管理者により家族・医療機関ともに話し合いが行われ、全職員に共有できるように話されていた。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	全職員が協力し、適切な対応を検討し取り組まれていた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーを損ねないように心がけてはいるが、まれに職員の言葉掛けが適切でないときも見られる。	○	本人が気づかずに行われていると思われ、その都度職員同士で適切に対応していけるように話しあっていく必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いを受け止め、多様な角度から接する努力をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は出来る限り毎日本人の希望を聞きだし、実行できるように努力されているが、職員の配置時間などの理由により対応できない希望がある。	○	勤務体系や配置時間などの概念を取り払い、入居者の希望に応じての時間配分なども検討していく必要があるが、難しいように思える。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	利用・美容に関しては行われている。おしゃれや化粧などを行う機会が少ないように思われる。	○	日常着など家族が家から持ってきたり、買ってきたりするものが多い。本人が選べるように買い物の機会を設けるなどの対応も検討していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る人はお皿選びから盛り付け・調理に及ぶまで、職員とともに行われている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人はもちろん家族や医師とも話し合い、提供されている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	チェック表を作成し、なるべくトイレで排泄できるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	声掛けがなければ入浴を希望することがほとんどなく、職員の都合で勤めることもある。その際は、無理に入浴するのではなく、本人が入ろうと思う誘い方、タイミングで行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりに合わせて、昼夜逆転しないように支援されている。		なるべく日中活動的に過ごすことにより、夜間安心して眠れるように支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来るだけ活発に過ごせるように支援されているが、まれに職員の都合でされないときも見られる。		仕事やテレビ・ビデオ鑑賞、読書・外出・外食など出来る限り対応している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの方が職員が金銭管理している。		以前居室にて大量のお金が紛失したことがある。家族の了解のもと本人が所持している方もいるが、多額は難しい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出来る限り外出や買い物・外食などされている。また、家族の家や家族との外出も取り入れている。		外出のケアプランも作られており、一人ひとりに合わせて提供されている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月一回の個別レク・年中行事などのさいに、家族の参加も呼びかけ行われている。また、家族と本人の時間も大切に、職員は送迎のみ行うなど色々配慮しながら行っている。	○	ホームにいと家族と本人だけの時間がなかなか無いため、職員は送迎のみ行うなど今後も増やしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	出来る人のみ行われているが、回数は少ない。	○	今後、さらに頻繁に行えるように、家族とも話しをしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問の際には、入居者の方がお茶を運んだり面会は自由に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束を必要とする入居者はいないが、職員全員が正しく理解はされていないように思われる。	○	高齢者虐待防止法の中では説明されたが、身体拘束の面についてもう少し深く話し合う必要があり、研修や内部研修を取り入れていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室・フロアの入り口には日中鍵は掛けていない。玄関のみ自動ドアのスイッチが別な場所に取り付けられている。		玄関のみ重大事故防止の為、スイッチを移動しているが外出の際には職員が同行し、出来るだけ本人の意思を尊重できるように支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は居室にいる人にはプライバシーに配慮し、定期的に声を掛けている。夜間はセンサーを使用するなど、配慮がなされている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者ひとりひとりの状態に応じてなされている。		精神的に不安定な方がおり、危険物品は最低限保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・緊急時の対応や連絡先など、マニュアル化されており職員がいつでも確認できる状態である。		事故防止委員会の設置を行った。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命講習に毎月数名ずつ参加している。	○	これからも研修をおこない、周知徹底を図りたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策についてのマニュアルは出来ているが、地域の人々への働きかけは行われていない。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	管理者が各入居者の状態を把握し、家族への説明を適切に行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	申し送りやチェック表などで職員間で対応されている。		提携医療機関と連携し、対応されている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬についてはチェックが何重にも出来る状態にされている。また、薬表に細かく記載することにより、職員間で把握できるように努めている。		提携薬局にも協力頂き、薬に関しての疑問などは答えていただいている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事・歩行・下剤など主治医と相談のうえ検討されている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、声掛けや見守り・介助にて行われている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合わせ、食事・水分チェックを行っている。		好みの飲み物や、補助食品などを使用し支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	定期的に手すりや人が触れる部分、トイレの消毒を行い感染症予防に努めている。また、手洗いも随時行われている。感染症対策マニュアルは作成中である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所・調理器具は毎食後消毒を行っている。冷蔵庫内も定期的に掃除されている。食材については毎日使用する分だけ用意し、管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花壇や休憩できる場所が用意されている。近隣の人が入り出すことはない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間に季節感を感じるような写真や、飾り付けをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間のTV前、事務所にソファが置かれ、それぞれがお茶を飲んだりタバコを吸ったり出来る居場所を用意している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様それぞれが入居時に昔から使い慣れたものを持ってきており、なるべく自宅に近い環境にされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度ともに定期的にチェックされ適した環境になされている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した人には問題ないが、身体機能が低下してくるに従って不便なところもでてきている。	○	今後身体機能の低下も考慮したうえで、手すりの増設なども考えていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者様の様子を事前に察知し混乱を防ぐ対応が出来ている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏場は玄関前にテントを設置し、流しソーメン・焼肉など昼食を食べたり、おやつを食べたり出来るようにしている。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない ① 各居室担当より、本人・家族の意向を定期的に話され出来るだけ本人の意向どおりに暮らせるよう努力されている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ① 食事・おやつの時間楽しく過ごせるように支援されている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない ② 出来る限り本人のペースを尊重しているが、時間的余裕がない場合もありその際には職員のペースになりがちである。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない ② 一日に一度は必ず笑顔を引き出せるように努力している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない ② 出来る限り訴えがあったときに外出できるようにしているが、受診や研修で職員が足りない場合には外出できないときもある。その際は本人に説明し、日を改めて提供するようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない ① 連携医療機関・主治医のもと安心できるように支援されている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない ① 管理者により面会時、ケアプラン説明時に話し合われている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③ まれに利用者の友人が訪ねてくるときがある。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない④
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない③
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない②
【特に力を入れている点・アピールしたい点】		
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)		
ひとりひとりの個性を大事にしている。		